

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296800036		
法人名	株式会社 オール看護小笠		
事業所名	グループホーム小笠（Aユニット）		
所在地	静岡県菊川市上平川201		
自己評価作成日	令和元年6月30日	評価結果市町村受理日	令和元年7月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=2296800036-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和元年7月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から9年目となり、運営基盤の安定を図りながらサービスの質の向上を目指しています。働きやすい環境づくりとして、残業ゼロ、有給休暇取得、個別事情に応じた働き方の選択などの取り組みを行っています。離職率を低く抑えることで、安定的な介護サービスが提供できるよう日々努めています。また近年では、社内勉強会に力を入れています。全体的なレベル向上を目指し、併設する2号館(グループホーム)と合同で、リスク・身体拘束・教育という3つの委員会を立ち上げると共に、自主勉強会を開催することで資質向上を図る機会としています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外出の機会が少ない現状を鑑み「せめて中庭で和んでもらいたい」と、トマトやきゅうりの夏野菜や、紫陽花、トレニアなど爽やかな季節の花を植えたところ、利用者と一緒の水やりの機会もでき、生活リハビリにつながっています。このように小さなことからコツコツ向上させるのが得意な事業所ですが、近年最も配慮してきたのは「働きやすい環境づくり」で、正社員8名は3年以上の勤続と努力が実りつつあります。例えば「時間で帰らなければ」という意識づけを会社全体で取組むとともに有給休暇取を奨励し、従来フルタイムのみの採用は曜日限定や「3時まで」という人も歓迎して、働き方改革を進めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念として「地域に開かれた介護と看護の協働したグループホーム」を掲げている。近隣の医療機関や行政機関との連携をはじめ、地域に根差した施設となるよう努めています。	個人目標管理シートは「理念」「事業所目標」「年間目標」を連動させ、「毎月振り返りを記入する」「年2回管理者との面談」という仕組みを以て、マネジメントサイクルに乗せていて、「理念を推進しよう」という意識は職員に自然に浸透しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月の常会出席の他、地区祭典や防災訓練への参加を継続している。顔の見える関係性づくりを続けてきたことで、少しずつ地域の方々に事業所を認知して頂けるようになったと実感している。運営推進会議に、毎回自治会長が出席して下さることも、地域との繋がりを保つ上での重要性が高いと考えている。	「地域に根差す」理念実践の一つとして自治会の常会出席を開設以来重ねており、顔見知りも増えて気軽に声をかけてもらえるまでになっています。また長年課題としていた民生委員の運営推進会議出席もようやく叶い、事業所の地道な活動ぶりが実を結んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市や近隣などから、認知症に関する情報提供や支援の依頼があれば、随時受け付ける体制を整えている。利用者家族や職員から介護相談を受けることもあり、状況に応じて行政やサービスに繋がられるようアドバイスしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内では主に、入居者様の生活状況や事業所の取り組みを報告している。昨年度から2回に1回、民生委員にも出席頂き、身体拘束適正化委員会を会議内で執り行っている。情報交換の他、客観的な意見を頂ける場であり、運営理解やサービスの質の向上には欠かせない会となっている。	報告とともにテーマも定め、運営推進会議は隔月開催できています。30分という短い時間なもの地域、行政、利用者、家族が顔を揃える中、ハザードマップの見直し等具体的な課題を共有できる場として機能していることが丁寧な議事録からも覗えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議において、毎回市担当者と地域包括支援センター職員の双方に出席頂き、情報交換や意見交換を行っている。市主催の事業所連絡会へ出席している。特に連携支援が必要な際には、情報交換をより密に行うことで協力を図っている。	菊川市の介護保険事業所連絡会の参加に努め、また運営推進会議には菊川市、地域包括支援センター職員の出席が得られ、双方向で協力し合っています。また昨年の実施指導では丁寧な指導を以て事故報告などにおいて是正が叶っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所として身体拘束ゼロ宣言を行った上で、日常業務の中での拘束の気付きを大切にしており、随時リーダー・管理者による指導を行っている。身体拘束委員会の中では、拘束や虐待について勉強会を実施している。	身体拘束適正化委員会は運営推進会議内で開催しており、昨年においても4回、今年度に入っても既に1回を終え、定期運営できています。また緊急やむを得ない場合の三要件については昨年度該当者がありませんでしたが、同意書並びに記録等も整備されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	接遇の向上を兼ね、日常的に入居者様の尊厳保持についての意識付けができるよう個別指導を行っている。また、自主勉強会の中において「高齢者虐待」をテーマに取り上げ学ぶ機会を設けている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個別に研修等に参加し、学んでいる職員はいる。事業所内には、実際に成年後見制度を利用している入居者様もいっしょに、必要な支援・連携を図っている。入居者様の家族構成や状況を把握した上で、制度の説明を行い利用を促す場合もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書については、文面を読み上げながら説明している。入居に関して、よくある質問や金銭面に関しては特に丁寧に説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に入居者様やご家族に交代で出席して頂き、公の場で意見や思いを発信して頂ける機会となっている。日頃から良好な関係性を築く為に、面会時や電話連絡時には、ご要望等があれば気軽にお話して頂けるよう、雰囲気作りにも努めている。	事業所通信は写真を掲載するようになってから家族に好評で、「一目で様子が分かる、毎回取っておいてある」との声も届いています。また運営推進会議の議事録は『平成30年度運営推進会議の主な議題』報告書として家族に送付し、参加促進及び情報共有を進めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、個人面談を実施しており、各職員から意見や提案を聞く機会を設けている。また日頃から職員の気付きや意見を吸い上げられるよう、リーダー・管理者は職員とコミュニケーションを図るようにしている。現場レベルで処理できる事案についてはスピーディーに反映するよう努めている。	定期的な職員会議は行っていませんが年2回個人面談を実施しており、現場に入ることが多い管理者の耳に細かい要望が日常的に入っています。また自主勉強会には勤務者以外ほぼ全員が出席していて、意欲的な職員集団です。	病欠の職員が出て管理者が通常シフトに入っている現状を早期に是正するとともに、今後はリーダーの育成を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の能力考課シートの記入や、毎月の個人目標の振り返りにて、自己評価と管理者評価を行い、代表に報告している。基本的には残業がほぼない職場であり、公休や有給を取得し易くしたり、働き方の希望に対しある程度の融通を利かせられるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所独自の自主勉強会の開催および、社内研修として代表による社内研修が実施されている。昨年度より、介護福祉士の協力を得て出前講座を受講している。外部研修においては、随時情報提供を行っており、管理者推薦により受講する場合もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員が市主催の研修や協議会等に参加することで、学びを得ながら同業者との交流を深めると共に、情報交換を行う機会を設けている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、介護支援専門員、ユニットリーダーがアセスメントを通じて得た情報を、職員や訪問看護師に速やかに提供している。入居初期段階においては、関わりを密にすると共に言動を詳細に記録するようにしている。それらを共有・分析することで、早期に適切な個別ケアを実施できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階では特に、家族ならではの心労や不安に耳を傾けながら、入居者様が新しい暮らしの場で安定した生活ができるよう、情報交換や共有に努めている。また、電話連絡や面会時に、こまめに近況報告を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様やご家族の意向を汲みながら、管理者、介護支援専門員、ユニットリーダーを中心に、アセスメントを通じた話し合いを行い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者様が家事作業等を共同することで、生活感のある暮らしとなるよう心掛けています。また、入浴の日時や食事の時間・場所に融通を利かせた対応が行えている。一方的な関係性とならないよう、個人を尊重しながらも必要な支援が図れるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診時の付き添いや、面会・外出の機会を設けて頂くよう協力依頼している。毎月のおたより送付や、電話連絡等により近況を伝えと共に、緊急時や困難な問題が生じた時には速やかに連絡を取り、協力を仰いでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前のかかりつけ医に継続的に通院できるよう支援している。守秘義務を守りつつ、親族以外の知人・友人の面会も行えるよう対応している。また、入居者様の混乱を招かないよう、反応や様子を伺いながらの適切な対応を図っている。	受診ついでに自宅に立ち寄ったり、また正月に帰省する利用者もいます。書をたしなんでいた人が指導者となる書道の時間を毎月設けたり、大正琴を持ち込んだままになっていた人が「また始めたい」と自室で練習して後フロアで披露したこともあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活を営む上で他者との関わりに不安を抱いたり孤立することがないように、様子を見ながら職員を交えたコミュニケーションを図っている。作業やレクの間では入居者様の良い面を引き出せるよう心がけ、作業後にはお礼や労いの言葉を掛けることで、QOLの向上に繋がるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後には、これまでご利用・ご協力頂いたことにお礼を述べると共に、今後も介護でお困りのことがあればご相談下さるよう伝えている。また、他施設に移られた方やご自宅に戻られた方に対しては、細やかに情報提供し、必要に応じてアフターフォローを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様、ご家族からの聞き取りや他、入居前後のアセスメントやモニタリングを通じ、その人らしい暮らしができるよう支援している。日常生活の中で、入居者様の言動をよく観察することで、潜在的なニーズの発掘と、情報共有によるサービスの向上を目指している。	入居時のアセスメントシートはあっても、直に掴む新たな情報が日々あり、「していること」「できること」「好きなこと」「得意なこと」「暮らしの注意点」といった細目で構成される「発見！シート」へ記録し、職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には、ご本人やご家族から今までの暮らしぶりを聞き取ると共に、介護支援専門員や相談員等から情報収集を行っている。入居に至り、これまでと環境は変わるが、意向や嗜好を尊重しながら、継続支援や代替的な支援を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守りの中での観察力の強化により、異変の早期発見、早期対応に努めている。共同生活において、日課を強制することはせず、個々の体調やお気持ちを尊重しながら、気持ちよく過して頂けるよう働きかけを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者と居宅担当者を中心に、モニタリングやアセスメントを実施している。また、随時職員から気付きや情報を収集するよう努めている。ケアプランは、入居者様やご家族の意向を伺いながらニーズを挙げ、実現可能と考えられる目標やサービス内容としている。	アセスメントシート、「発見！シート」の情報を基に、計画作成担当者が介護計画書を作成し、介護支援専門員が見直しをおこなっています。サービス内容が端的でわかりやすい介護計画書はケース記録に綴じてあり、職員は随時確認し実践につなげています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録している。健康状態が一目で分かる月間記録表も設け、医療連携の際にも情報提供できる書類となっている。シフト制の勤務であり、口頭での情報共有には限界がある。申し送りノートに細かい指示事項や、共有したい情報をタイムリーに記入することで、情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居から退居に至るまで、可能な限りの柔軟な対応を心がけている。状態に応じ、訪問看護の利用や福祉用具の利用等、他職種と連携を図り個別支援を行っている。また、ご家族の都合により対応出来ない場合の受診介助も実施している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	開設当初より、毎月ハーモニカボランティアの訪問を受けている。防災訓練では、地域の避難所まで実際に避難する訓練も実施している。近隣の神社に参拝しながら回る散歩コースでは、地域住民との交流を図る機会ともなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も、元々のかかりつけ医に継続的に通院できるよう体制を整えている。受診の付添いについては、ご家族の協力を得ながら柔軟に対応している。ご家族対応の場合には、近況や相談事が医師に正確に伝わるよう、手紙を添えるようにしている。	全員が在宅の頃からのかかりつけ医を継続しており、医療情報は「受診記録」に記載しています。中には往診対応が可能な医師もありますが、重度化とともに往診が必要となれば体制が整った医院の中から家族に選んでもらい、管理者が家族と一緒に変更のお願いに出向いています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算を算定しており、毎週訪問看護師との打ち合わせを行っている。健康状態の他、日々の生活の様子や受診報告も行い、アドバイスや指示を受けている。併設の訪問看護事業所との連携である為、緊急時の対応や看取り対応時には特にスムーズな連携を図れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には早期に出向き、病院関係者に情報提供を行っている。入院中は、面会や電話連絡にて、病院関係者やご家族から情報提供を受けている。また、退院前には可能な限りICに参加し情報を得ることで、退院後の生活が安定するよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における方針や意向を、入居時や状態変化時に確認するようにしている。ホームでの看取りを希望された場合には、ご家族の協力を得ながら、主治医や訪問看護師と密に連携を図り、チームケアを実践している。	この2年で3名の看取りに取り組んでいます。契約時には「まだわからない」と言う家族が多いため、終末についての考えを口頭で意向確認し、状態変化により重度化が予想される時に話し合いをもつという段取りとしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故が起きた場合の連絡窓口をリーダー・管理者に統一し、速やかな報・連・相を行うことで、適切な初期対応が図れるようにしている。また、自主勉強会の中で、急変や事故対応について学ぶ機会がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、入居者様の協力を得ながら、火災・地震・水害を想定した防災訓練を実施している。また、地区の防災訓練には、可能な限り職員が参加するよう努めている。近隣には、災害時の地域協力協定を締結している施設もあり、事業所の今後の検討課題となっている。	夜間想定も含み年2回防災訓練を実施し、内1度は消防署職員の立合いを受け、「フォーマットや事前の打ち合わせ無しに職員が自主的に判断し動くことができるようになるため、次回はぶっつけ本番で実施してみようか」との提案も得ています。	より実践的な防災訓練が実施されるとともに、地域との協力関係がさらに進むことを期待します。

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自主勉強会において、入居者様の尊厳やプライバシーの保護についての重要性を学んでいる。また、日々のケアの中でも、入居者様への言葉かけに注意したり、否定せずに寄り添う姿勢を大切にしている。	職員には声の大きさに留意するよう伝え、「利用者の生活の場が職員が働く場」と化さないよう管理者から話して聞かせています。親切心からの過干渉、上から目線の言葉が出てしまう職員もいなくはないため、自主勉強会ではグループワークを通して気づきを促しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段からコミュニケーションを大切にし、良好な関係性の中で、思いや希望を表に出して頂けるよう努めている。誘導や介護を提供する際には、強制することなく自然な形で行えるよう、個々に合わせ援助方法を工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課は概ね決まっているものの、日中の過ごし方を自己選択できるような働きかけを行っている。個々の気分や体調に配慮しながら、食事の時間や食べる場所、入浴の予定など柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には洗面行為が行えるよう、必要な援助を行っている。訪問理美容時には、入居者様の好みを美容師に伝えるようにしている。髭剃りや爪切りの介助も、こまめに実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居前には事前に食の好みを把握し、それに応じたものを提供している。また、献立の希望も随時受け付け、厨房職員に情報提供を行っている。盛り付け、食器拭き、野菜の皮剥き等の家事作業を、入居者様と職員にて共に行っている。	利用者のリクエストや残食検討等厨房職員と管理者2名で給食会議を続け、牛乳を週4回、ヨーグルトを毎朝提供するといった体調改善にも余念がありません。おせちや赤飯などの行事食も盛んで、毎月送るお便りにも載せて家族にも報せています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によって管理された献立・食事提供が行われている。個別の食事形態にて、栄養バランスの良い食事が提供され、摂取量の記録も行っている。嗜好品を提供したり、食事のデザートにゼリーを付けたりすることで、水分量の確保を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的には、毎食後の口腔ケアを実施している。頻度や方法については、個々の入居者様の状態や能力に応じて援助している。また、義歯を装着している方については、特別な事情がなければポリドント消毒を行っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	見守りや介助が必要な入居者様、排泄の状態確認が必要な入居者様については、排泄記録を取っている。自尊心に配慮したケアの提供や、排泄間隔にも配慮した誘導を実施すると共に、残存機能を活かした排泄動作となるよう支援している。	排泄間隔は個々で異なるため排泄チェック表でパターンを掴み、また自立の人でも排便の確認が必要な人には付き添って記録を残しています。共用トイレもありますが慣れた自室のトイレを使う人が大多数で、足腰の訓練にもつながっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常的に食物繊維が多く摂れる献立としている。また牛乳やヨーグルトを提供したり、好みに応じた飲料を提供したりすることで、薬だけに頼らない工夫を行っている。その他、ラジオ体操や室内外の散歩やレクリエーションの機会を設けることで、適度な運動量を確保できるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	順番やペースに関しては、入居者様の希望を汲むよう心がけている。また、心地よい入浴となるよう、声掛けや対応に注意を払い、お一人でゆったりと入浴できるよう支援している。安全面を考慮し、夜間の入浴には対応していない。	一般浴と機械浴(寝浴)を設置しており、状態によって選べます。3日に一度を清潔保持の目安としていますがほぼ毎日入浴する人もいて、柔軟に対応しています。また一対一になる貴重な機会としてゆっくりコミュニケーションをとるようにしていて、昔話に花が咲く日もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の習慣・リズム、心身の状態に応じ、安心感を得られるよう、環境を整えたり寄り添いを大切にしている。日中の活動量や満足感にも目を向け、薬だけに頼ることなく働きかけをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の内容については、職員により習熟度や理解度に差がある。服薬介助については、薬のセットから空袋のチェックに至るまでの手順をマニュアル化している。また、医師の指示の下、排便状態に応じた便秘薬の調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共同生活の中での家事や軽作業、レクリエーション等の様々な場面において、自身の存在が認められ、それが喜びや張り合いとなるよう支援している。人間らしい、笑顔のある暮らしを支えることで、QOLの向上が図れるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候や体調を考慮しながら、近隣への散歩にお誘いしている。ホームの行事としては、外出支援は多くないが、ご家族の協力を得ながら外出の機会を得られるよう働きかけている。	気候、体調が良く、職員の手がある日には近所にある春日神社までを散歩コースとし、できない時には玄関先のベンチで季節の風に親しんでいます。年間行事としての外出は春のお花見が恒例ですが、本年は利用者の体調不良などが重なり実現できていません。	事業所独自が難しいようなので、家族とも相談、協力し合って、外出支援が充実していくことを期待します。

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金の管理や買い物支援については、全て職員にて行っているが、財布を持つことで安心感を得られる入居者様については、ご家族の承諾を得た上で、財布を所持することができる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話を希望される場合は、基本的には職員が連絡を取り内容を伝達している。内容によっては、直接お話して頂く場合もある。個人の携帯電話の利用は可能。手紙のやりとりを希望される場合は、葉書や切手の購入、ポストへの投函の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	両フロアが開放されているが、ソファやテーブルの位置を工夫している。ユニット毎のリビング・ダイニングスペースを創り出すことで、ユニット内での顔見知りや馴染みの関係が築けるよう努めている。また、空調や電光、テレビの音量に関しては、入居者様にも意見を伺いながら調整している。	迫力ある猪(干支)の水墨画の隣には達筆揃いの利用者の書道作品が掲示され、「あじさい」「びわ」「金魚」など季節がイメージできるテーマを選び、毎月貼り出して有用感を培っています。フロア全体は専任の清掃担当職員が丁寧に掃除しており、清潔です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の表情や言動を注意深く観察しながら、その時々で必要な居場所が提供できるよう心がけている。自然発生した入居者様同士のコミュニケーションを大切にしながら、良好な関わり合いが持てるよう職員が橋渡し役を担うこともある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や置物を設置することが出来る。馴染みの物を身近に置くことで、その人らしい生活ができ、安心感を得られることもあることを入居者様やご家族に説明し、ご理解・ご協力を頂いている。	ベッド、テレビ、大正琴、タンス、衣装ケースと様々、居室にはその人らしさが感じられるものを持ち込まれています。馴染んだ活字を目で追う日々を想う家族が置いた小ぶりのテーブルと椅子は、家主が不在でも存在感を醸し出しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、外玄関には手すりが設置されており、安全な移動の手助けとなっている。また、身体機能が低下しても安全に気持ち良く入浴して頂けるよう機会浴槽の設備もある。ホーム内の引き戸のノブは大きめに造られており、床は段差のないバリアフリーの環境であり、自立支援の一役を担っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296800036		
法人名	株式会社 オール看護小笠		
事業所名	グループホーム小笠（Ｂユニット）		
所在地	静岡県菊川市上平川201		
自己評価作成日	令和元年6月30日	評価結果市町村受理日	令和元年7月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=2296800036-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和元年7月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から9年目となり、運営基盤の安定を図りながらサービスの質の向上を目指しています。働きやすい環境づくりとして、残業ゼロ、有給休暇取得、個別事情に応じた働き方の選択などの取り組みを行っています。離職率を低く抑えることで、安定的な介護サービスが提供できるよう日々努めています。また近年では、社内勉強会に力を入れています。全体的なレベル向上を目指し、併設する2号館(グループホーム)と合同で、リスク・身体拘束・教育という3つの委員会を立ち上げると共に、自主勉強会を開催することで資質向上を図る機会としています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外出の機会が少ない現状を鑑み「せめて中庭で和んでもらいたい」と、トマトやきゅうりの夏野菜や、紫陽花、トレニアなど爽やかな季節の花を植えたところ、利用者と一緒の水やりの機会もでき、生活リハビリにつながっています。このように小さなことからコツコツ向上させるのが得意な事業所ですが、近年最も配慮してきたのは「働きやすい環境づくり」で、正社員8名は3年以上の勤続と努力が実りつつあります。例えば「時間で帰らなければ」という意識づけを会社全体で取組むとともに有給休暇取を奨励し、従来フルタイムのみの採用は曜日限定や「3時まで」という人も歓迎して、働き方改革を進めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念として「地域に開かれた介護と看護の協働したグループホーム」を掲げている。近隣の医療機関や行政機関との連携をはじめ、地域に根差した施設となるよう努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月の常会出席の他、地区祭典や防災訓練への参加を継続している。顔の見える関係性づくりを続けてきたことで、少しずつ地域の方々に事業所を認知して頂けるようになったと実感している。運営推進会議に、毎回自治会長が出席して下さることも、地域との繋がりを保つ上での重要性が高いと考えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市や近隣などから、認知症に関する情報提供や支援の依頼があれば、随時受け付ける体制を整えている。利用者家族や職員から介護相談を受けることもあり、状況に応じて行政やサービスに繋がられるようアドバイスしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内では主に、入居者様の生活状況や事業所の取り組みを報告している。昨年度から2回に1回、民生委員にも出席頂き、身体拘束適正化委員会を会議内で執り行っている。情報交換の他、客観的な意見を頂ける場であり、運営理解やサービスの質の向上には欠かせない会となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議において、毎回市担当者と地域包括支援センター職員の双方に出席頂き、情報交換や意見交換を行っている。市主催の事業所連絡会へ出席している。特に連携支援が必要な際には、情報交換をより密に行うことで協力を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所として身体拘束ゼロ宣言を行った上で、日常業務の中での拘束の気付きを大切にしており、随時リーダー・管理者による指導を行っている。身体拘束委員会の中では、拘束や虐待について勉強会を実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	接遇の向上を兼ね、日常的に入居者様の尊厳保持についての意識付けができるよう個別指導を行っている。また、自主勉強会の中において「高齢者虐待」をテーマに取り上げ学ぶ機会を設けている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個別に研修等に参加し、学んでいる職員はいる。事業所内には、実際に成年後見制度を利用している入居者様もいらっしゃり、必要な支援・連携を図っている。入居者様の家族構成や状況を把握した上で、制度の説明を行い利用を促す場合もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書については、文面を読み上げながら説明している。入居に関して、よくある質問や金銭面に関しては特に丁寧に説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に入居者様やご家族に交代で出席して頂き、公の場で意見や思いを発信して頂ける機会となっている。日頃から良好な関係性を築く為に、面会時や電話連絡時には、ご要望等があれば気軽にお話して頂けるよう、雰囲気作りにも努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、個人面談を実施しており、各職員から意見や提案を聞く機会を設けている。また日頃から職員の気付きや意見を吸い上げられるよう、リーダー・管理者は職員とコミュニケーションを図るようにしている。現場レベルで処理できる事案についてはスピーディーに反映するよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の能力考課シートの記入や、毎月の個人目標の振り返りにて、自己評価と管理者評価を行い、代表に報告している。基本的には残業がほぼない職場であり、公休や有給を取得し易くしたり、働き方の希望に対しある程度の融通を利かせられるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所独自の自主勉強会の開催および、社内研修として代表による社内研修が実施されている。昨年度より、介護福祉士の協力を得て出前講座を受講している。外部研修においては、随時情報提供を行っており、管理者推薦により受講する場合もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員が市主催の研修や協議会等に参加することで、学びを得ながら同業者との交流を深めると共に、情報交換を行う機会を設けている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、介護支援専門員、ユニットリーダーがアセスメントを通じて得た情報を、職員や訪問看護師に速やかに提供している。入居初期段階においては、関わりを密にすると共に言動を詳細に記録するようにしている。それらを共有・分析することで、早期に適切な個別ケアを実施できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階では特に、家族ならではの心労や不安に耳を傾けながら、入居者様が新しい暮らしの場で安定した生活ができるよう、情報交換や共有に努めている。また、電話連絡や面会時に、こまめに近況報告を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様やご家族の意向を汲みながら、管理者、介護支援専門員、ユニットリーダーを中心に、アセスメントを通じた話し合いを行い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者様が家事作業等を共同することで、生活感のある暮らしとなるよう心掛けています。また、入浴の日時や食事の時間・場所に融通を利かせた対応が行えている。一方的な関係性とならないよう、個人を尊重しながらも必要な支援が図れるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診時の付き添いや、面会・外出の機会を設けて頂くよう協力依頼している。毎月のおたより送付や、電話連絡等により近況を伝えと共に、緊急時や困難な問題が生じた時には速やかに連絡を取り、協力を仰いでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前のかかりつけ医に継続的に通院できるよう支援している。守秘義務を守りつつ、親族以外の知人・友人の面会も行えるよう対応している。また、入居者様の混乱を招かないよう、反応や様子を伺いながらの適切な対応を図っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活を営む上で他者との関わりに不安を抱いたり孤立することがないよう、様子を見ながら職員を交えたコミュニケーションを図っている。作業やレクの場では入居者様の良い面を引き出せるよう心がけ、作業後にはお礼や労いの言葉を掛けることで、QOLの向上に繋がるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後には、これまでご利用・ご協力頂いたことにお礼を述べると共に、今後も介護でお困りのことがあればご相談下さるよう伝えている。また、他施設に移られた方やご自宅に戻られた方に対しては、細やかに情報提供し、必要に応じてアフターフォローを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様、ご家族からの聞き取りや他、入居前後のアセスメントやモニタリングを通じ、その人らしい暮らしができるよう支援している。日常生活の中で、入居者様の言動をよく観察することで、潜在的なニーズの発掘と、情報共有によるサービスの向上を目指している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には、ご本人やご家族から今までの暮らしぶりを聞き取ると共に、介護支援専門員や相談員等から情報収集を行っている。入居に至り、これまでと環境は変わるが、意向や嗜好を尊重しながら、継続支援や代替的な支援を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守りの中での観察力の強化により、異変の早期発見、早期対応に努めている。共同生活において、日課を強制することはせず、個々の体調やお気持ちを尊重しながら、気持ちよく過して頂けるよう働きかけを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者と居宅担当者を中心に、モニタリングやアセスメントを実施している。また、随時職員から気付きや情報を収集するよう努めている。ケアプランは、入居者様やご家族の意向を伺いながらニーズを挙げ、実現可能と考えられる目標やサービス内容としている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録している。健康状態が一目で分かる月間記録表も設け、医療連携の際にも情報提供できる書類となっている。シフト制の勤務であり、口頭での情報共有には限界がある。申し送りノートに細かい指示事項や、共有したい情報をタイムリーに記入することで、情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居から退居に至るまで、可能な限りの柔軟な対応を心がけている。状態に応じ、訪問看護の利用や福祉用具の利用等、他職種と連携を図り個別支援を行っている。また、ご家族の都合により対応出来ない場合の受診介助も実施している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	開設当初より、毎月ハーモニカボランティアの訪問を受けている。防災訓練では、地域の避難所まで実際に避難する訓練も実施している。近隣の神社に参拝しながら回る散歩コースでは、地域住民との交流を図る機会ともなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も、元々のかかりつけ医に継続的に通院できるよう体制を整えている。受診の付添いについては、ご家族の協力を得ながら柔軟に対応している。ご家族対応の場合には、近況や相談事が医師に正確に伝わるよう、手紙を添えるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算を算定しており、毎週訪問看護士との打ち合わせを行っている。健康状態の他、日々の生活の様子や受診報告も行い、アドバイスや指示を受けている。併設の訪問看護事業所との連携である為、緊急時の対応や看取り対応時には特にスムーズな連携を図れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には早期に出向き、病院関係者に情報提供を行っている。入院中は、面会や電話連絡にて、病院関係者やご家族から情報提供を受けている。また、退院前には可能な限りICに参加し情報を得ることで、退院後の生活が安定するよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における方針や意向を、入居時や状態変化時に確認するようにしている。ホームでの看取りを希望された場合には、ご家族の協力を得ながら、主治医や訪問看護師と密に連携を図り、チームケアを実践している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故が起きた場合の連絡窓口をリーダー・管理者に統一し、速やかな報・連・相を行うことで、適切な初期対応が図れるようにしている。また、自主勉強会の中で、急変や事故対応について学ぶ機会がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、入居者様の協力を得ながら、火災・地震・水害を想定した防災訓練を実施している。また、地区の防災訓練には、可能な限り職員が参加するよう努めている。近隣には、災害時の地域協力協定を締結している施設もあり、当事業所の今後の検討課題となっている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自主勉強会において、入居者様の尊厳やプライバシーの保護についての重要性を学んでいる。また、日々のケアの中でも、入居者様への言葉かけに注意したり、否定せずに寄り添う姿勢を大切にしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段からコミュニケーションを大切にし、良好な関係性の中で、思いや希望を表に出して頂けるよう努めている。誘導や介護を提供する際には、強制することなく自然な形で行えるよう、個々に合わせ援助方法を工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課は概ね決まっているものの、日中の過ごし方を自己選択できるような働きかけを行っている。個々の気分や体調に配慮しながら、食事の時間や食べる場所、入浴の予定など柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には洗面行為が行えるよう、必要な援助を行っている。訪問理美容時には、入居者様の好みを美容師に伝えるようにしている。髭剃りや爪切りの介助も、こまめに実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居前には事前に食の好みを把握し、それに応じたものを提供している。また、献立の希望も随時受け付け、厨房職員に情報提供を行っている。盛り付け、食器拭き、野菜の皮剥き等の家事作業を、入居者様と職員にて共に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によって管理された献立・食事提供が行われている。個別の食事形態にて、栄養バランスの良い食事が提供され、摂取量の記録も行っている。嗜好品を提供したり、食事のデザートにゼリーを付けたりすることで、水分量の確保を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的には、毎食後の口腔ケアを実施している。頻度や方法については、個々の入居者様の状態や能力に応じて援助している。また、義歯を装着している方については、特別な事情がなければポリドント消毒を行っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	見守りや介助が必要な入居者様、排泄の状態確認が必要な入居者様については、排泄記録を取っている。自尊心に配慮したケアの提供や、排泄間隔にも配慮した誘導を実施すると共に、残存機能を活かした排泄動作となるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常的に食物繊維が多く摂れる献立としている。また牛乳やヨーグルトを提供したり、好みに応じた飲料を提供したりすることで、薬だけに頼らない工夫を行っている。その他、ラジオ体操や室内外の散歩やレクリエーションの機会を設けることで、適度な運動量を確保できるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	順番やペースに関しては、入居者様の希望を汲むよう心がけている。また、心地よい入浴となるよう、声掛けや対応に注意を払い、お一人でゆったりと入浴できるよう支援している。安全面を考慮し、夜間の入浴には対応していない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の習慣・リズム、心身の状態に応じ、安心感を得られるよう、環境を整えたり寄り添いを大切にしている。日中の活動量や満足感にも目を向け、薬だけに頼ることなく働きかけをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の内容については、職員により習熟度や理解度に差がある。服薬介助については、薬のセットから空袋のチェックに至るまでの手順をマニュアル化している。また、医師の指示の下、排便状態に応じた便秘薬の調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共同生活の中での家事や軽作業、レクリエーション等の様々な場面において、自身の存在が認められ、それが喜びや張り合いとなるよう支援している。人間らしい、笑顔のある暮らしを支えることで、QOLの向上が図れるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や体調を考慮しながら、近隣への散歩にお誘いしている。ホームの行事としては、外出支援は多くないが、ご家族の協力を得ながら外出の機会を得られるよう働きかけている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金の管理や買い物支援については、全て職員にて行っているが、財布を持つことで安心感を得られる入居者様については、ご家族の承諾を得た上で、財布を所持することができる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話を希望される場合は、基本的には職員が連絡を取り内容を伝達している。内容によっては、直接お話して頂く場合もある。個人の携帯電話の利用は可能。手紙のやりとりを希望される場合は、葉書や切手の購入、ポストへの投函の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	両フロアが開放されているが、ソファやテーブルの位置を工夫している。ユニット毎のリビング・ダイニングスペースを創り出すことで、ユニット内での顔見知りや馴染みの関係が築けるよう努めている。また、空調や電光、テレビの音量に関しては、入居者様にも意見を伺いながら調整している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の表情や言動を注意深く観察しながら、その時々で必要な居場所が提供できるよう心がけている。自然発生した入居者様同士のコミュニケーションを大切にしながら、良好な関わり合いが持てるよう職員が橋渡し役を担うこともある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や置物を設置することが出来る。馴染みの物を身近に置くことで、その人らしい生活ができ、安心感を得られることもあることを入居者様やご家族に説明し、ご理解・ご協力を頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、外玄関には手すりが設置されており、安全な移動の手助けとなっている。また、身体機能が低下しても安全に気持ち良く入浴して頂けるよう機会浴槽の設備もある。ホーム内の引き戸のノブは大きめに造られており、床は段差のないバリアフリーの環境であり、自立支援の一役を担っている。		